



# 能古博物館だより



## 戦前の教科書に リーダーシップを学ぶ

理事長兼館長 原 寛

残暑お見舞い申し上げます。  
何かにつけてしのぎ難い今夏。  
如何お過ごしでしょうか。

津波の恐ろしさを描いた戦前の尋常小学校教科書、いわゆる国定教科書に出会いました。

題して「稲むらの火」とつさの判断で村人を救った五兵衛という老人の物語です。1854年と言いますから157年前、安政南海地震津波の際に紀伊国広村(和歌山県広町)であった実話をモデルにしています。1937年(昭和12年)から同47年(同22年)の教科書に掲載されました。

津波にいち早く気づいた庄屋の五兵衛は村人に緊急事態を告げるため

収穫したばかりの稲束(稲むら)に松明の火を放ちます。お米は一粒まで大切に時代にあつて汗の結晶に火をつける判断は苦渋の決断です。しかし村人の命には代えられませぬ。火の手を見た村人は消火のため高台にある五兵衛宅目指して駆け上がつてきます。背後に押し寄せる津波の波浪……。



原 寛  
人の村人は  
間一髪、400  
全員助かり  
ます。

「稲むらの火」の教訓は福島第1原発の放射線被害にも通じます。  
孫子の代まで持続するフクシマの放射線被害は野菜からお茶、牛肉、お米へと目を追って拡大し、5ヶ月余が過ぎました。とりわけ深刻なのは各地で放射線被害にさらされている幼い子どもたちの問題です。外で遊べない、プールに入れないという事態がいつまで続くのでしょうか。集団疎開を、という母親たちの悲痛な叫びが聞こえてきます。

生死を分ける差し迫った事態では五兵衛のような「果敢な初動」が何より重要です。一国のリーダーもそうあつて欲しいですね。

消夏法のひとつにと、「稲むらの火」の全文を次頁に掲載しました。出典は「小学国語読本 昭和世代全巻揃」(秋元書房)。昭和期(昭和8、15年)全12冊の巻十(5年生用)です。

△写真説明▽ 当館孔子廟前の櫛の木が大きくなりました。孔子ゆかりの木として全国に数十本ある内の貴重な1本です。1993年(平成5年)、佐賀県多久市の多久聖廟のご好意で6年生の樹苗を分与されました。成木になり花を付けるまでに20年以上掛かり、雌雄異株のため花が咲いても1本では結実しないといわれます。

尋常科

# 小學國語讀本

卷十  
文部省

## 第十 稲むらの火

「これは、たゞ事でない。」

とつぶやきながら、五兵衛は家から出て来た。今の地震は、別に烈しいといふ程のものではなかつた。しかし、長いゆつたりとしたゆれ方ど、うなるやうな地鳴りとは、老いた五兵衛に、今まで経験したことのない無氣味なものであつた。

五兵衛は、自分の家の庭から、心配げに下の村を見下した。村では、豊年を祝ふよひ祭の支度に心を取られて、さつきの地震には一向氣がつかないものやうである。

村から海へ移した五兵衛の目は、忽ちそこに吸附けられてしまった。風とは反對に波が沖へくと動いて、見る／＼海岸には、廣い砂原や黒い岩底が現れて来た。

「大變だ。津波がやつて来るに違ひない。」と、五兵衛

### 救

は思つた。此のまゝにしておいたら、四百の命が、村もろ共一のみにやられてしまふ。もう一刻も猶豫は出来ない。

「よし。」

と叫んで、家にかけて込んだ五兵衛は、大きな松明を持って飛出して来た。そこには、取入れればかりになつてゐるたくさんの稲束が積んである。

「もつたいないが、これで村中の命が救へるのだ。」と、五兵衛はいきなり其の稲むらの一つに火を移した。風にあふられて、火の手がぱつと上つた。一つ

### 薄 没



又一つ、五兵衛は夢中で走つた。かうして、自分の田のすべての稲むらに火をつけてしまふと、松明を捨てた。まるで失神したやうに、彼はそこに突立つたまゝ、沖の方を眺めてみた。

日はすでに没して、あたりがだん／＼薄暗くなつて来た。稲むらの火は天をこがした。山寺では、此の火を見て早鐘をつき出した。

「火事だ。莊屋さんの家だ。」

と、村の若い者は、急いで山手へかけ出した。續いて、老人も、女も、子供も、若者の後を追ふやうにかけ出した。

高臺から見下してゐる五兵衛の目には、それが蟻の歩みのやうにもどかしく思はれた。やつと二十人程の若者が、かけ上つて来た。彼等は、すぐ火を消しにかゝらうとする。五兵衛は大聲に言つた。「うつつちやつておけ。——大變だ。村中の人に来てもらふんだ。」

村中の人、は、追々集つて来た。五兵衛は、後から後

から上つて来る老幼男女を一人々々數へた。集つて来た人々は、もえてゐる稲むらと五兵衛の顔とを、代る／＼見くらべた。

其の時、五兵衛はカ一ぱいの聲で叫んだ。

「見ろ。やつて来たぞ。」

たそがれの薄明かりをすかして、五兵衛の指さす方を一同は見た。遠く海の端に、細い、暗い、一筋の線が見えた。其の線は見る／＼太くなつた。廣くなつた。非常な速さで押寄せて来た。

「津波だ。」

と、誰かが叫んだ。海水が、絶壁のやうに目の前に迫つたと思ふと、山がのしかゝつて来たやうな重さ、百雷の一時に落ちたやうなど／＼るきを以て、陸にぶつかった。人々は、我を忘れて後へ飛びのいた。雲のやうに山手へ突進して来た水煙の外は、一時何物も見えなかつた。

人々は、自分等



の村の上を荒狂つて通る白い恐しい海を見た。二度三度村の上を海は進み又退いた。

高臺では、しばらく何の話し聲もなかつた。一同は、波に急ぐり取られてあとかたもなくなつた村を、たゞあきれて見下してゐた。

稲むらの火は、風にあふられて又もえ上り、夕やみに包まれたあたりを明かるくした。始めて我にかへつた村人は、此の火によつて救はれたのだと氣がつくと、無言のまま、五兵衛の前にひざまづいてしまつた。

能古博物館所蔵

「石橋家文書」の

解説・解析作業(その3)

友の会会員 石橋善弘

嶋井仁右衛門への融資

出財年賦証文

(参考資料・仮番号002、003)

先回に引き続き「お金」にまつわる話である。石橋家文書の中には、借用証、土地・屋敷などの売買契約書など、江戸時代後期における福岡藩郡部の経済状況を示す書類が多数見られる。ここで紹介するのは、嶋井仁右衛門という郡奉行に対する融資に際して、仁右衛門が石橋家に渡した借用証(仮番号002、003)である。嶋井仁右衛門自身それほど有名ではないし、大した借用証ではないが、それでも「お金を介在物としての武士と商人の関係をうかがわせるもの」として二見の価値はあろう。

仮番号002の文書は

「出財年賦証文之事

一 六銭九貫目

但巻ケ年二付三百目充払方

右之通村仕組二付致調達候間

御書付をも頂戴被

仰付置候右二付当辰ノ年より来ル

酉ノ年迄利無シ三拾ケ年賦ヲ以

右割当リ之通毎年十二月十日

切無滞可差返候自然異議

有之節ハ此証文差出可請  
才判候依而為後年証文  
如件

嶋井仁右衛門

寛政八年辰三月

姪浜村

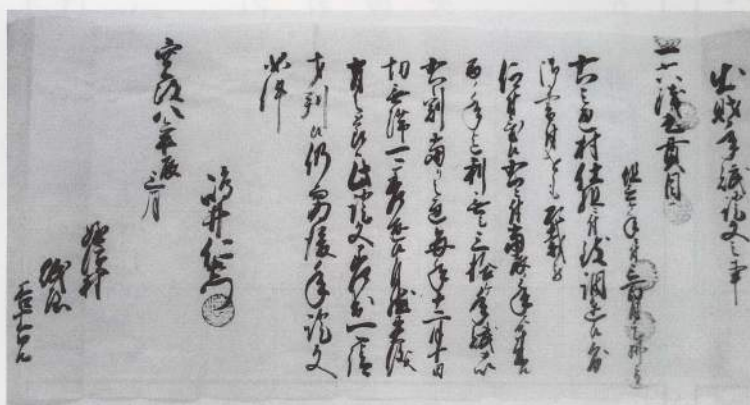
紙屋

善十郎殿

というものである(写真1)。

30年返済 無利子 無担保

この資料によると、寛政8(1796年)辰年3月、早良郡姪浜村紙屋石橋善十郎が嶋井仁右衛門に六銭九貫目を融資した。その時の条件は無利子、30ヶ年賦である。仁右衛門は、辰年(1796年)から酉年(1825年)までの30年間、毎年300目ずつ12月10日にきちんと払います、もし違反があったらこの証文を差出して裁判に付して下さい、これはそのときのための証文ですと云っている。



借主の嶋井仁右衛門が郡奉行をつとめた人物であり、貸し手の善十郎より地位が高いことは、借主の名

前が善十郎の名前より高いところに書かれていることからわかる(写真1参照)。そのような身分関係があるので、村仕組を口実にして、30年賦、無利子、無担保という借り手にとつて極めて有利な条件で無理矢理融資させた雰囲気がある。善十郎側もはじめから完全返済はあてにしていなかったのかもしれない。借用証が残っていることは、完全には返済されなかったことの何よりの証しである。

仮番号003の文書は

「証拠之事

一 六拾文銭三貫五百目

但頭二割利付

右当巳春掛り郡田方仕据料

不足分其方より出銀候処

無相違候然ル上八来午年より

五ヶ年賦を以割合之通可致

返済候右為無異変証文

如件

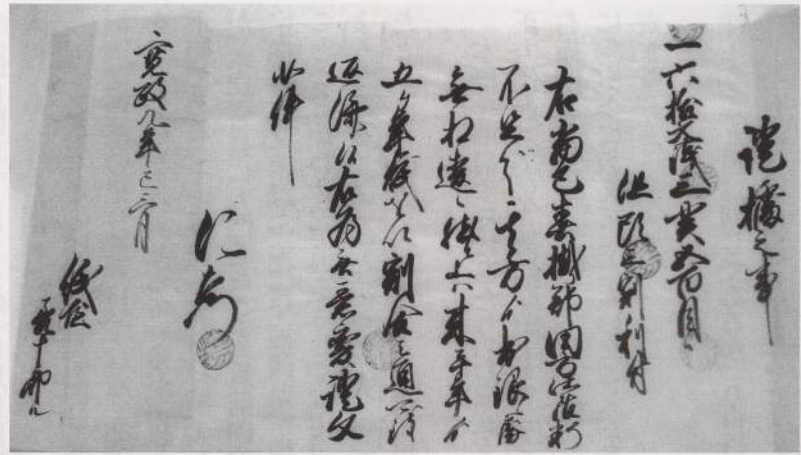
仁右衛門

となつている(写真2)。

農村の基盤整備事業に費消か

この文書によると、宛名が明らかでないので確言できるところではないが、善十郎は翌寛政9(1797年)巳年にも同じく嶋井仁右衛門に六拾文銭3貫500目を、はじめは3割の利付きで融資したらしい(3行目の「頭」は、「はじめは」という意味である)。このときの約束は次年(1798年)午年より5ヶ年賦で返済するということである。この融資について仁右衛門は職掌柄、担当地域の田方仕据料が不足していることを借財の理由にしているが、前の証文同様、借財の理由が記されているのは面白い。借財には何でもよいから、とにかく理由が必要だったのだろう。ちなみに、田方

(写真2)



仕据料というのは農村部における開墾、土地改良や耕作の振興などの為の費用である。

なお、3割の利子というのは現在の標準からすればペラボウに高いと考えられるが、そうしたのには、いくつかの理由が考えられる。その第一は、前年も借り手有利な条件で融資しているの

たい融資額ほどのくらいだったのだろうか？

それを見積もる前に江戸時代の通貨制度について知っておく必要がある。江戸時代には、金・銀・銭の3種の貨幣が使われた。そのうち金と銭は計数貨幣(個数(枚数)を数える貨幣)であるが、銀は秤量貨幣(天秤で重さを測る貨幣)である。重さをいちいち測るのは面倒であるし、通常はそんなに大きな金はいらないので、日常生活ではもっぱら計数貨幣である銭が使われた。この辺は、落語「時そば」で、銭を「ひい、ふう、みい、……」と数える場面を思い起こせばよい。ところが、まとまったお金となると、銭では不便であるから、銀や金が使われた。そうなると金・銀・銭の間の交換レートを引きめておく必要がでてくる。一応幕府公定の交換レートがあるにはあったが、それより大事なのは藩ごとの交換レートであり、しかもその交換レートは日々刻々変わりうるものである。勿論、同一藩内で、主として銭で生活している庶民にとっては交換レートの変動はそれほど気にする必要はない(円・ドルの為替レートが変動していても、われわれの日常生活では気にしなくて良いのと同様に)。

証文一枚で千六百万円

さて、もとに戻って融資額であるが、仮番号002の証文にある「六銭九貫目」(六銭は六拾文銭を省略したもの)は、銭60文を銀1匁として(同じことであるが銀1匁につき銭60文として)銀9貫目(9,000匁)という意味である(注1)。即ち前半の六(拾文)銭のところ、銭・銀の交換レートを明記しているのである(注2)。ここで、この交換レートについて考えてみよう。1文の現代価値をいうのは簡単ではないが、「二八そば」(即ち 2×8=16文のそばが現代では500円程度とすると、1文は約30円に相当するとみてよさそうである)の30円は、当時の人夫の日当などからみても妥当のようである。そうすると、60文は18

00円相当になる。他方、銀1匁(3.75グラム)は平成22年末では約330円となるが、1800円イコール330円というわけにはいかないで、どうやら銀の価値は5乃至6倍しておく必要があるらしい。しかし、ここでは銀に換算しないで、文を単位として考えていくと簡単である。すなわち、「六拾文」銭九貫目は60×9000×30で、約1,600万円が現代に引きうつした融資額であることを意味している。

同様に、仮番号003での融資額は「六拾文銭三貫五百目」、即ち60×3500×30で、630万円になる。1600万円といひ630万円といひ、庶民にとっては大金であるのは勿論であるが、保証人もなく、一片の証文だけでこのような大金の貸し借りがされていたことには驚くばかりである。

武士支えた商人

先号(「能古だより」62号)の「扶持」についての稿でも明らかにしたように、江戸中期以降は、とてつもない大金が富裕商人と武士階級の間でやりとりされている。今回の融資にしても「仕組みに変更があった」、「田方仕据料が不足している」などいろいろ借財の公的理由がのべられているが、どう転んでも個人が富裕商人に頼る理由にはなりそうではない。郡部にあった石橋家にしてこのような状況であったのだから、福岡市中央にあった富裕商人にはいろいろの理由をつけて、もっと多くの融資申し込みがあったはずで、融資側としても大変だったのではないだろうか？ 一般論としては、こういう事例が積もり積もって、タカリの構造ができあがり、ひいては官民(士商)癒着、贈収賄など社会の腐敗につながっていくであろうことは容易に想像できる。ただし、江戸後期の社会がそうであったかどうかは議論のあるところだろうし、政治権力と経済力が分離した社会にはそれなりの良い面があったのかもしれない。

金・銀・銭 交換は変動相場

以上で、この融資にまつわる雰囲気はわかるが、いっ

で、「今回はこれで」という貸し方の希望、第二は無担保である上、一般的に仁右衛門(郡奉行)クラスの藩士の信用度は決して高くはなく、どうせ貸し倒れになるのならばどのような利子であっても結果は同じ、などである。

これら2件の融資は、どちらも借用証が残っているというところは返済されなかったことを意味しているが、これも武士と商人の間ではよくあることだったのかもしれない。仁右衛門さんは、はじめから「貸していただくつもりだったのか？」

## 郡奉行は文化人？

最後に、関係者であるが、いまのところ融資した方の紙屋善十郎を特定することはできない。しかし、(一)屋号が紙屋であること、(二)名前に「善」という字が使われていること、(三)昔の人は、幼名、成人名、家督相続後の襲名による名前としばしば名前を変えていること、(四)石橋家の菩提寺である白毫寺(福岡市西区)の過去帳によると、善十郎として葬られた人物はいないらしいこと、(五)にもかかわらず、善十郎の娘マツの墓および位牌が姪浜日過町石橋家に残っていること、(六)寛政時代に生きていた人物、などを考慮すると、「能古だより」62号に出てきた石橋善三郎房種(天保10己亥(1839年)8月12日77歳で没)と同一人物であろうと推定される。

対する借り手の嶋井仁右衛門は、諱を俊雄といい、福岡藩西部の早良郡だけではなく他の郡でも郡奉行をつとめたことはわかっているが、得ていた禄高などは不明である。そのほか、筆者自身確認したわけではないが、本居宣長に入門したこと、筑前国学を学んだこと、宗像宮古文書録(宗像宮・福岡県宗像市)を作成したことなどがわかっているらしく、相当の文化人だったようである。そうだとすると、大金が返済されなかったとしても、融資した方にとっては、「以て瞑すべし」か。

☆

本稿を準備するにあたり、石橋家文書研究会(早船正夫代表)の方々、特に原順子さん(文書解説、嶋井仁右衛門について)、早船正夫さん(江戸時代の通貨制度について)に教えていただいたことが多い。感謝の意を表す。

☆

注1 〃 刃と目は同じであるが、五百目、二拾目など、終りの方の桁が0であるときには、書き物では「目」を使ったようである。これは賢い方法で、

たとえば二拾刃とすると1の桁に書き落としてあるかどうかかわからないので心配になるが、二拾目としておくと書き落としてはないことが確認できる。石橋家文書にも桁がとんだときに(たとえば、千五拾五文など)、そのことを確認するために、この場合なら百位の横に丸印や角印をつけられている例が多数みられる。昔の数字の表記法では、ソロバンで計算するような場合、桁がとんだときは特に注意が必要だったのである。現代の表記法では、そのような場合には0が書かれているし、電卓を使うときも、迷うことなく書かれている通りに0を入力すればよいのは周知の通りである。

注2 〃 交換レートとしては、八拾銭や百式拾銭(百拾九銭)などがある。

【筆者紹介】 いしばし よしひろ 昭和10年(1935)福岡市姪浜町に生まれる。福岡師範学校(現福岡教育大学)付属小・中学校、修猷館高校、東大院卒。名古屋大学名誉教授。理学博士。

## 「海外引揚げ」に新資料

## 福岡市の田中さんから

西日本新聞朝刊の福岡都市圏版に本館の活動が紹介され、海外引揚げにまつわる資料の提供を呼びかけたところ、「引揚げ関係の蔵書があるが」との電話を数件受けました。福岡市中央区の田中浩子さんから朝鮮半島の引揚げを詳細に記録した貴重な1冊「朝鮮終戦の記録―米ソ両軍の進駐と日本人の引揚げ―」(森田芳夫著)をはじめ6点を寄贈していただきました。

このほか國が支給した引揚者特別慰労品の銀杯も新たに寄贈され、これらの新資料は別館2階の「海外引揚げの記憶」コーナーに追加展示されます。

## ・寄贈図書

(1) 朝鮮終戦の記録―米ソ両軍の進駐と日本人の引揚げ―森田芳夫著(巖南堂書店) (2) ある戦後史の序章―MRU引揚医療の記録―(3) 朝鮮渡航と引揚げの記録 森田秀夫著(非売品) (4) 週刊読売臨時増刊・シベリア捕虜収容所の記録 (5) 博多港引揚資料展パンフレット2006年、2009年版 (6) 朝日新聞縮刷版コピー・昭和16年9月21日付け ▽寄贈者 福岡市中央区赤坂 田中浩子さん

## ・寄贈資料

引揚者に係る特別慰労品(銀杯) ▽寄贈者 福岡市東区名島 西牟田耕治さん

## 【本館来訪】

・5月21日 福岡市立多々良中学校放送部生徒9人、顧問教諭2人。海外引揚げの放送番組制作で写真 〃 ▽西日本新聞福岡西支局長石田剛記者。取材で。



・6月26日 慶応大学斯道文庫 山城喜憲教授。「亀井南冥・昭陽著作書誌」6冊の参考読み込みで。

・7月12日 東京のアニメプロダクション「IG」の神山監督ほか3人。福岡市市民局文化・スポーツ部の田畑安夫主査らの案内で。作品のロケハン。

# 「ロシナンテス支援寄金」に 大きな反響・・・

総額96万6千803円もの支援寄金が集まりました。ご協力ありがとうございます。謹んで御礼申し上げます。

☆

原寛館長はじめ「友の会」会員らが中心になって呼びかけた「ロシナンテス支援寄金」はお陰様で素晴らしい成果を生み、7月31日現在、150件(団体・個人)、79万6千円に達した。

これに「新老人の会」九州支部の講演会会場で募った「ワンコイン募金」17万803円を加えると、総額96万6千803円になった。

この浄財はそっくり9月18日の講演会(別紙参照)の席上、川原尚行・ロシナンテス理事長に名簿と共に手渡す。講演会にもぜひご参加下さい。

今年4月に本格化したロシナンテス支援の呼びかけは目を追って反響が大きくなった。博多銘菓の老舗・如水庵(本社・福岡市博多区)の皆様は、「社内募金を日赤などに送ったが、残金をどうしようか迷っていた。ロシナンテスは目的がはっきりしているし、おカネが直接、ご本人に渡る。これだと思った。」(森恍次郎社長の話)と多額の浄財を寄せた。

☆

一方、新老人の会九州支部(原寛世話人代表)では、創設10周年記念講演会(講師・日野原重明会長)を5月7日、新装なったJR九州ホールで開催。東日本大震災と福島原発事故の緊急事態発生に鑑み、急遽、ロシナンテスの川原尚行さんを招き現地報告を行った。

## 能古博物館

友の会では、同支部の協力でロビーにロシナンテス支援の「ワンコイン募金箱」を置いて、館員やサポーターが寄金を募った。写真・中央は川原さん。

この日の募金も好調。推定で300人前後の方々から合計17万803円が箱に投げられた。



- ワンコイン募金の内訳
- ▽5千円札 2枚▽千円札 82枚▽5百円玉 130枚▽100円玉 128枚▽50円玉 17枚▽10円玉 13枚▽5円玉 3枚▽1円玉 8枚
- 金額合計17万803円。

## ◆ご支援いただいた団体(法人・会社)、個人

(敬称略)

- 【団体】▽八木病院▽(株)安恒組▽(株)ホームケアーサービス▽(株)如水庵・社員一同▽(株)サンコー▽(株)CDS▽(株)シーク・伊勢川 桂右▽原病院・久原 伊知郎▽身体障害者リハビリセンター・中島 博子▽島の館・中園 成生▽福岡リハビリテーション病院 原道也▽(株)彩苑 洲上 徹彦▽(財)日本博物館協会・守井 典子
- 【個人】▽足立 晴道▽阿部 秀美▽網中 秀雄・松美▽有川 優子▽有吉 いづみ▽池田 修三▽池松 幾生

- ▽石井 福美▽石井 美智子▽石橋 喜久▽石橋 延枝▽石橋 善弘▽泉 建志▽市丸 喜一郎▽出光 豊▽伊東 賢二・幸子▽井上 昭義▽井上 洋子・博▽岩本 博秀▽牛島 弘子▽江崎 小二郎▽江口 正一▽江口 宏嗣▽江坂 啓介▽大石 恭仁子▽大塚 健次郎▽大庭 浩司▽沖村 明子▽小野崎 徹▽小山田 公子

- ▽甲斐 泰子▽柏木 和子▽金子 柳水▽樺島 一子▽釜我 敏子▽嘉村 正子▽亀井 准輔▽川田 啓治▽河野 道博▽岸 和枝▽岸川 伸子▽吉瀬 宗雄▽國武 英子▽熊谷 豪三▽熊谷 達彦▽黒田 明子▽小坂 セツ▽小西 昭司▽小堀 瑠伊子▽小宮 作

- ▽榊 和美▽坂田 虔一▽坂田 さつ紀▽朔望▽朔元 則▽佐藤 富士子▽四ヶ所 郁子▽篠原 ヨシ子▽島塚 祐弘▽進しのぶ▽陣内 幸子▽杉原 正毅▽函師 祐子▽鈴木 サカエ▽関 賢司

- ▽高木 いづみ▽高根 襄▽多々羅 文子▽竹下 威▽檀 太郎▽塚本 昭二▽地頭所 ミエ子▽徳丸 垂水▽徳永 武生 和子▽豊田 文彦・富美子

- ▽永岡 喜代太▽中塩 喜美子▽中島 怜子▽中村 ケイ子▽中村 博嘉▽鍋島 典子▽西方 悦子▽西川 晴己▽西川 浩▽西田 靖子▽西牟田 耕治▽仁保 喜之▽野添 敦子▽野田 洋一郎

- ▽長谷川 寿美子▽波多野 直之▽服部 たか子▽花田 ひろ子▽花房 昌子▽林 十九楼▽原 順子▽原 靖子▽原 祐一 和美▽東原 慶治▽樋口 恵子▽福井 和子▽福田 殖▽福田 雅子▽福山 智美▽藤井 鉄夫▽豊丹 生昌義▽宝来 紀子▽堀川 大助

- ▽真角 磨鬼枝▽松井 公江▽松井 俊規▽松井 友美▽松岡 智恵子▽松崎 多典▽松崎 由紀子▽松吉 千鶴子▽真鍋 聡▽御厨 久佳▽見沢 照栄▽翠川 文子▽南 アサノ▽三宅 碧子▽宮崎 集▽宮崎 美津子▽森 恍次郎▽森 純子▽森田 一雄▽諸岡 和子

- ▽安松 淳祐▽山田 厚▽山本 留美▽吉雄 幸治▽吉武 美津子▽吉松 須和子▽脇山 静代▽渡邊 彰

### カメラスケッチ 世界のフェリー

☆ドーバー海峡☆  
「ドーバー」カレー航路



ロンドンからパリに向かう欧州旅行の途次、英国側の「白い崖」見たさにフェリーを選び、ドーバー海峡を横断した。海底トンネルを走る新幹線に乗れば3時間で車を乗り継ぎ、10時間余かかった。

#### バカンス客で満員 30分遅れて出航



ロンドンのセント・パンクラス駅を朝10時過ぎの特急に乗ると1時間余でドーバー・フライア一駅に着く。そこから専用バスでドーバー港へ。白い崖が見えてきた。船は国際航路のカーフェリーだけに四千級と大きい。写真①。料金は普通席で大人ひとり29.5ユーロ(約3千5



季節は初夏、じつと座っている人は少ない。後部デッキで眺望を楽しむ乗客がどんどん増えた。写真②。夏のバカンスはこれからだが、学生のグループやバックパックの若者で定員一杯の様子。乗船に手間取り出港が30分近く遅れた。港口で対岸から来た僚船とすれ違う。写真③。

#### 「白い崖」に見とれる

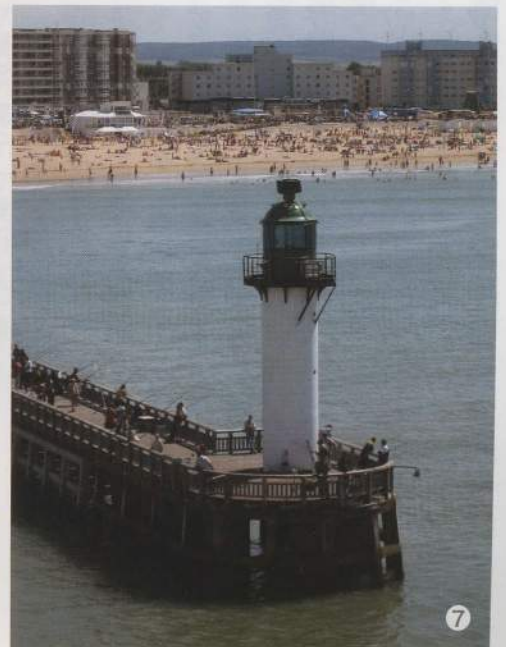
対岸は平和そのもの



気温20度。ヨーロッパ戦史に再三登場する海峡は白波ひとつない。ヨットも帆を下ろして漂う。



おだやかな日差しを受け、崖は地中海の島々のように白く光った。写真④、この上空でスイングジャズのベニー



グッドマンが専用機と共に散ったのは第2次大戦の末期。映画「ベニー・グッドマン物語」で愛妻を演じたジューン・アリスンの可憐な面影が、ふと浮んだ。

対岸のカレー港まで2時間半。手慣れた操船で着岸した。写真⑥

。土曜日のせいか港の周辺は釣りや海水浴の人々で大賑わい。写真⑦。平和な日常が息づいていた。

(N)





能古博物館協賛会・友の会

継続・新規会員 (平成23年7月現在)

法人協賛会員

- ・医療法人 笠松会有吉病院
- ・税理士法人エム・エイ・シー
- ・ギャラリー倉
- ・医療法人社団江頭会さくら病院
- ・医療法人社団廣徳会岡部病院
- ・多々良福祉会 特別養護老人ホームなごみの里
- ・多々良福祉会 たいよつの里
- ・(株)CDS
- ・福岡メデイカルリース
- ・医療法人恵光会原病院
- ・(株)サンコー
- ・浄満寺
- ・(株)メデイカルアシスト青葉
- ・(医)大乘会 福岡リハビリテーション病院
- ・(株)彩苑
- ・(株)豊友技建工業
- ・エームサービス(株) HSS九州事業部
- ・(有)トータル・サポート・コーポレーション
- ・(株)ホームケアサービス
- ・西日本シティ銀行土井支店 (敬称略・順不同)

個人協賛会員

- 明石 散人
- 足立 晴道
- 安藤 文英
- 石野 智恵子
- 出口 親
- 上崎 典雄
- 上野 道雄
- 岡部 ぎよみ
- 柏木 重人
- 亀井 准輔
- 久保 千春
- 熊谷 豪三
- 毛戸 彰
- 朔望
- 朔元 則
- 鼻地 三郎
- 仁保 喜之

友の会会員

- 関敏巳
- 添島 律子
- 平祐一
- 多々羅 節子
- 津村 泰夫
- 津田 建次
- 寺坂 禮治
- 寺田 隆
- 戸井 雅貴
- 原敬二郎
- 原寛
- 原真澄
- 原礼子
- 藤井 鉄夫
- 福山 智美
- 増田 康治
- 翠川 文治
- 本松 利治
- 八木 博司

- 石橋 延枝
- 石橋 正治
- 石橋 善弘
- 一鬼 秀之助
- 市丸 喜一郎
- 出光 豊
- 出光 芳秀
- 井上 昭義
- 稲葉 英彦
- 今永 一成
- 今村 さち
- 石清水 由紀子
- 岩本 博秀
- 上 蘭 幸則
- 上田 恒久
- 上田 博
- 上瀧 玲子
- 上原 孝正
- 上村 八郎
- 魚住 夫佐子
- 牛島 弘子
- 内山 茂美
- 内山 節子
- 宇都宮 邦子
- 内海 眞記子
- 梅埜 國夫
- 浦田 裕
- 江口 正一
- 江崎 小二郎
- 江原 幸雄
- 大石 恭仁子
- 大木 茂
- 大島 照子
- 大智 玲子
- 大庭 浩司
- 大庭 静枝
- 岡部 九州生
- 岡本 顕實
- 小川 誠
- 小川 道博
- 荻原 美枝子
- 小野 崎徹
- 小山田 公子
- 柏木 和子
- 香月 悦子
- 金子 柳水
- 嘉村 正子
- 川田 啓治
- 川野 道博
- 河辺 敬一
- 河村 敦二
- 木血 敦代
- 岸和 枝
- 岸 洋子
- 岸川 伸子
- 吉瀬 宗雄
- 城戸 兼子
- 木戸 龍一
- 清山 啓子
- 清水 美弥子
- 久世 玲子
- 國武 英子
- 久芳 正隆
- 黒田 明子
- 甲本 達也
- 古賀 勝子
- 小坂 セツ
- 小宮 修一
- 小谷 玲子
- 児玉 瑠伊子
- 小堀 伊子
- 小柳 定子
- 小山 京子
- 小山 富夫
- 小山 やすよ
- 境 トモエ
- 神和 美
- 坂口 征雄
- 坂梨 喬
- 櫻木 榮紀
- 佐藤 郁男
- 執行 敏彦
- 篠田 栄太郎
- 篠原 コシ子
- 柴戸 次雄
- 柴本 隼太
- 島塚 祐弘
- 白橋 裕美
- 進藤 邦彦
- 進藤 康子
- 杉謙一
- 杉原 正毅
- 杉山 謙
- 関節 祐子
- 住本 直之
- 住本 霞
- 住本 直之
- 関賢司
- 瀬戸 美都子
- 高木 いづみ
- 高崎 幸江
- 高崎 俊光
- 高嶋 季雄
- 高根 襄
- 高松 まり
- 武田 洋子
- 田坂 大蔵
- 田里 朝男
- 田代 朝子
- 立石 京
- 谷口 治達
- 田村 奈央
- 鶴田 スミ子
- 徳永 武生・和子
- 泊 秀治
- 富永 靖雄
- 豊田 文彦
- 豊田 富美子
- 長尾 勲
- 永岡 喜代太
- 中島 謙吾
- 中島 怜子
- 中園 克郎
- 中野 和子
- 中野 和子
- 中野 和子
- 長野 静香
- 鍋島 典子
- 西方 俊司
- 西田 靖子
- 西牟田 奈々
- 西山 紀子
- 野崎 逸郎
- 長谷川 寿美子
- 播口 弘子
- 波多野 直之
- 服部 たか子
- 花田 ひろ子
- 林 由紀子
- 林 九楼
- 林 由紀子
- 原和美
- 原順子
- 原靖子
- 原一
- 原口 和子
- 原坂 泰盛
- 原田 雄平
- 東原 慶治
- 日野 原重明
- 姫野 弘子
- 平川 好美
- 平川 良輔
- 廣田 恵美子
- 福井 和子
- 福田 殖
- 福富 節子
- 福元 征四郎
- 藤瀬 三枝子
- 藤田 信義
- 藤村 昌弘
- 古川 映子
- 豊丹 生昌義
- 星川 満智
- 堀川 大助
- 堀川 敏也子
- 前田 敏也子
- 眞柴 和子
- 舛永 登世子
- 真角 磨鬼枝
- 松井 俊規
- 松尾 純子
- 松岡 智恵子
- 松熊 友彦
- 的野 恭一
- 松本 美津子
- 丸山 敏子
- 三浦 佑之
- 見沢 照栄
- 三角 幸子
- 溝口 進
- 三戸 京子
- 三苦 進
- 南アサノ
- 三野原 勝子
- 三宅 碧子
- 宮崎 集
- 宮崎 美津子
- 村上 牧
- 杜あとも
- 森 恍次郎
- 森 純子
- 森 正敏
- 森 昭子
- 森 昭子
- 森本 繁
- 安恒 忠男
- 安保 博史
- 安松 淳祐
- 矢野 鈴子
- 八尋 祥文
- 山川 美也子
- 山口 勝久
- 山田 博子
- 山本 留美
- 吉開 史朗
- 吉倉 禎子
- 吉田 登美代
- 吉田 洋一
- 吉松 須和子
- 吉安 蒼子
- 米倉 満子
- 脇山 玉枝
- 和田 宏子

- (1) 振込み料は当館にて負担させていただきます。
- (2) 受け付け次第、会員証とコーヒークケットをお送り致します。
- (3) 会費有効期限は1年と致します。
- (4) 入館時に会員証(同伴1名まで有効)を受付けにご提示下さい。回数制限はなく無料です。
- (5) コーヒークケットで挽きたての香り豊かなコーヒークケットをサレビス致します。
- (6) 能古博物館だよりを年数回お送り致します。また、会員の皆様の御寄稿、ご意見は同誌に掲載致します。但し諸事情で掲載を見送る場合がございます。ご了承ください。
- (7) 館が企画する催加費の割引を致します。

注)敬称略・五十音順、数字は会員歴(年数)



## アクセス

### 西鉄バス

- ・JR博多駅 博多口正面Aのりば  
300、301、302番 能古渡船場行: 約50分
- ・天神 三越前1Aのりば  
300、301、302番 能古渡船場行: 約30分

### 市営地下鉄:「姪浜駅」下車 乗り継ぎ

- ・西鉄バス姪浜駅 南口  
98番 能古渡船場行: 約12分
- ・タクシー: 約 8分

### 市営渡船(フェリー)

- ・姪浜一能古島間: 約10分

### 能古島渡船場より博物館まで

- ・徒歩: 約5分~10分
- ・アイランドパーク行き西鉄バス停  
「能古学校前」下車、徒歩(下り坂)約3分

### 問合せ

- 姪浜旅客待合所 TEL 092-881-8709
- 能古旅客待合所 TEL 092-881-0900

開館日/毎週 金曜・土曜・日曜と祝日

開館時間/10:00~17:00(入館16:30まで)

(注) 冬季(12月~1月)は、年末年始及び展示物入れ替えなどで長期休館を原則としています。御用の場合は事前にお問い合わせ願います。

入館料/大人400円・高校生以下無料  
※団体の場合は休館日にかかわらずご相談ください

|    | 姪の浜 発 | 能古 発  |
|----|-------|-------|
| 5  | 15    | 00    |
| 6  | 30    | 15 45 |
| 7  | 00 30 | 15 45 |
| 8  | 00 30 | 15    |
| 9  | 15    | 00    |
| 10 | 15    | 00    |
| 11 | 15    | 00    |
| 12 | 15    | 00    |
| 13 | 15    | 00    |
| 14 | 15    | 00    |
| 15 | 15    | 00    |
| 16 | 15    | 00    |
| 17 | 15 45 | 00 30 |
| 18 | 15 45 | 00 30 |
| 19 | 45    | 30    |
| 20 | 30    | 15 45 |
| 21 | 00    | 45    |
| 22 | 00    | 45    |
| 23 | 00    | 00    |

◎印は日祝日運休 2010年10月現在

### 渡船場からアイランドパークへの西鉄バス時刻表(平成23年7月16日現在)

渡船場前発(能古学校前まで約2分)

| 時    | 8     | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
|------|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 平日   | 12 55 | 45 | 30 | 30 | 55 | 35 | 35 | 35 | 45 |    |    |
| 土曜日  | 12 55 | 45 | 30 | 30 | 55 | 35 | 35 | 35 | 45 |    |    |
| 日・祝日 | 12 55 | 45 | 30 | 30 | 55 | 35 | 35 | 35 | 45 |    | 00 |

アイランドパーク発(能古学校前まで約8分)

| 時    | 8  | 9  | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 平日   | 30 | 20 | 3  | 13 | 28 | 18 | 18 | 18 | 18 | 28 |    |
| 土曜日  | 30 | 20 | 3  | 13 | 28 | 18 | 18 | 18 | 18 | 28 |    |
| 日・祝日 | 30 | 20 | 3  | 13 | 28 | 18 | 18 | 18 | 18 | 28 | 38 |

※ 繁忙期はバス、渡船とも臨時便が運行されます。



財団法人 竜岡文庫

能古博物館

〒819-0012 福岡市西区能古522-2 TEL 092-883-2887 FAX 092-883-2881  
http://nokonoshima-museum.or.jp E-mail info@nokonoshima-museum.or.jp